

秋田市ホームページで市長の動向や記者会見の内容などをお伝えしています。  
<http://www.city.akita.akita.jp/>

# 市長のほっこりコラム

市長 佐竹敬久



記者会見で2期目の抱負

## 一週間の勉強

一般の市長選挙では、再び市民の皆さまのご支持により二期目をつとめさせていただくことになりました。

皆さまのあたたかいお気持ちに触れるとともに、時代の大変換期の市政執行の責任者として、その重責を受けとめ、これからも、まじめに、正直に、そして丁寧に市長職をつとめてまいる覚悟です。

さて、一週間の選挙運動期間中、選挙カーのスピーカーからうるさい声を発し、また交通の妨げになるなど、市民の皆さまにご迷惑をおかけしたことをおわび申し上げます。

もつと静かに公約を訴えるとか別の方法があるのでは、というご意見もあります。現行の選挙制度の制約や地域の広さ、さらには費用の面からも、なかなか他のよい方法は思い浮かばないのが現実ですので、あしからずご理解をお願いします。

一方で候補者にとっては、駆け足であつても市内全域を駆けめぐること、さまざまなものを直接目にするこつとや、短い時間であつても市民から直に要望を聞くことができるま



川尻総社神社境内での朝市

たのない機会になります。

このようなかで、今回特に印象に残つたことを幾つかあげてみます。

まず、身近な居住環境に関するこつと、たとえば除雪の仕方やごみ収集時間の短縮、生活道路の整備など日常の生活環境上の要望が多いように感じました。また高齢のかたからはお孫さんの地元就職など雇用問題へのお話を多く聞き、いわゆる大きな政策・事業を大上段にとらえる向きは少ないように感じられました。

住宅街では街区公園の緑、神社仏閣では境内の美しさなどを再認識するとともに、そこで安らぐ多くの市民の姿を目にしました。また暑い中、公共エリアの清掃・美化に熱心に取り組むボランティアのかたがたや、最寄りの地域のグラウンドや広場で汗を流す多くの市民の姿に感動を覚えました。

公民館やコミセンの前を通ると、文化サークル活動が花盛りという様子が雰囲気として伝わってきました。

加えて農村部に広がる広大な農地や美しい山河を目にし、選挙で高ぶつた心に落ち着きを取り戻すとともに、一方では新しい住宅街のしゃれたデザインの新築家屋や、二〜三台分が普通になりつつある駐車スペース、四年前に比べ大幅に増加したヨーロッパ製の高性能の小型乗用車には驚きを禁じ得ませんでした。

あつという間でしたが、あらためて秋田市は緑あふれる美しい都市、奥の深い市民文化のまち、という感を強くするとともに、おおいに勉強になつた貴重な一週間でした。



# 佐竹敬久氏が再選

任期満了にともなう秋田市長選挙は六月十二日に告示され、佐竹敬久氏、佐藤純子氏の二氏が立候補。六月十九日に投票が行われました。

その結果、佐竹敬久氏が六万八千二百七十四票を得て再選され、二期目の市政運営に取り進むことになりました。

今回の市長選挙の投票率は33・71%（男34・35%、女33・15%）でした。

当日有権者数は二十六万五千八百六十五人、男十二万四千三十四人、女十四万千八百三十一人でした。

**当選** 佐竹敬久氏 68,274票

佐藤純子氏 19,638票

佐竹市長の略歴 昭和22年11月15日、角館町生まれの57歳。角館高校、東北大学工学部精密工学科卒。昭和47年に秋田県庁に入庁し、工業振興課長、地方課長、総務部次長などを歴任、平成9年に県庁を退職。平成13年7月、秋田市長に初当選。秋田県市長会会長、全国市長会財政委員長、税制調査会委員ほか。

都市内地域分権の実現に向けて

## 市内7地域に市民サービスセンター

問い合わせ 市民協働・地域分権推進室tel(866)2037

市では、「身近な行政サービスを身近な場所で提供することができる」「地域の課題は地域内で解決することができる」「仕組みをつくり、秋田市独自の市民協働・都市内地域分権を確立することが必要と考えています。」

その拠点となる施設として、市内7地域に(仮称)市民サービスセンターを配置し、市役所の事務やサービス、権限などを分散する予定です。西部地域を皮切りに、平成二十七年までの十年間で順次整備を進めていきます。

この施設をつくるにあたり、どんな施設にするかについて、それぞれの地域のみなさんと一緒に考えていきたいと思っています。今年度は、西部地域で下記のとおりワークショップを開催します。

みなさん、一緒に考えてみませんか。



### 西部地域

新屋(勝平含む) 新屋町 浜田 下浜 豊岩

## 市民サービスセンターについて考えよう!

(仮称)西部地域市民サービスセンターについてのワークショップを開催します。地域にとってよりよいサービスセンターをつくりあげるため、どんなサービスや機能がよいか、活用法などをみんなで考えませんか。

対象

市内にお住まいで、9月末まで4回程度のワークショップに毎回参加できるかた

日程など

第1回は7月26日(火)午後2時から、アトリエもさだ(秋田公立美術工芸短大内)で開催します。2回目以降はテーマごとのグループに分かれて開催日を決めます。報酬はありません(交通費などは自己負担となります)。

申し込み

住所、氏名、年齢、電話番号を書いて、ファクス、はがき、Eメールのいずれかで7月8日(金)までお申し込みください。  
〒010-8560秋田市山王一丁目1-1  
秋田市 市民協働・地域分権推進室  
ファクス(866)4930 Eメール ro-plcc@city.akita.akita.jp